

事業報告書

2019 年度の総括

2019 年度は、従来の事業を充実させつつ、新しい事業にもチャレンジし、当協議会の将来を明るくする一年でした。

従来の事業として、本協議会が事務局機能を担う「ワン・ワールド・フェスティバル」は、多くのボランティアの方々及び行政・企業等のご協力及びご支援をいただき、また、2 日間で 26,000 人の市民の方々にご来場賜わり、成功裏に閉幕することができました。

関テレアリーナにて新たな試みとして開催しましたシンポジウムは、現在直面している社会課題等を取り上げたこともあり、大変好評で、従来にない盛り上がりとなりました。また、当協議会が主催しました SDGs をテーマにしたシンポジウムも、成功裏に終える事ができました。このシンポジウムに参加された企業及び NGO 等との新たな関係が構築され、SDGs の目標達成に向けた当協議会と企業等との今後の協働関係に期待が持てるものとなりました。

また、本年度も若者人材育成事業として、アジア留学生をサポートするインターンシップ事業を推進して参りました。今回は中国出身の学生を受け入れ、将来ますます多様化するグローバル社会の担い手に育成するため、本協議会の会員団体様の SDGs の取り組み等の調査研究をテーマに 6 ヶ月間研修を実施しました。特に、ワン・ワールド・フェスティバルにボランティアとして参加し、運営スタッフとして運営に携わったことに大変感銘を受けたようです。

新しい事業として、多文化共生事業「こどもプラザ」を昨年 11 月 6 日(水)よりスタートさせました。この事業は、外国にルーツのあるこどもたちが、日本語が十分に話せないため疎外感を感じたり、学校の授業にもついていけない等の問題を抱える中、適当な施設が見つからない等の困難に直面している現状を踏まえ、この喫緊の社会課題を解決するために始めたものです。この言葉の問題は、労働力を外国に求める日本の社会構造そのものの問題であるため、年々増加することが考えられます。当協議会が中心となり「こどもプラザ」の拠点を拡充させ、この社会課題を解決することは大変意義深いことであり、資金的な援助も含め行政及び企業等と連携しながら推進して参ります。

ワン・ワールド・フェスティバルが成功裏に終える事ができた大きな要因として、ボランティアの協力が挙げられます。今回、SNS を利用した情報発信を行うことにより、若年層を中心に当事業に興味を持つ人が多くなり、ボランティアに応募された方が、2 日間で延べ人数 216 名を数えました。将来的にはワン・ワールド・フェスティバル事業だけでなく SNS を有効に活用することで、ボランティアのサポーターを募り、各種事業の拡充に取り組むことが重要であると考えています。

本協議会の役割として、会員との連携及び情報交換を密にし、会員をサポートすることが重要な役割と認識していますが、残念ながら本年度は十分に役割を果たすことができませんでした。この点を再度見直し、ホームページだけでなく SNS の活用も取り入れ、積極的な情報交換及び情報公開を行うことで、会員の皆様との連携を深める努力をして参ります。また、SDGs をテーマにしたシンポジウムを主催者として開催しましたが、SDGs の目標達成のプラットフォームの役割を担うべく、推進役として積極に対応したいと前向きに考えています。今後は、本協議会の役割をよく認識し、会員の皆様のサポート役として徹する所存でございます。

1.NGO／NPO間の連携促進事業(会員向け事業)

会員数＝正会員 47 団体、賛助会員(団体)0 団体、賛助会員(個人)2 名(2020 年3月 31 日現在)

＊団体名は本報告書末に一覧表を掲載

【2019 年度を以って退会する団体】正会員 54 団体(2019 年 3 月 31 日現在)

I・S・S、(一社)SDGs 市民社会ネットワーク、(一社)日韓伝統文化絆の会、(公財)枚方市文化国際財団、(公財)箕面市国際交流協会、(公財)守口市国際交流協会、留学生さとおやの会

(1)会員サービスの充実

〔 内 容 〕 会員間の情報交換、経験の共有を図ると共に、会員それぞれが有する専門性や経験・情報・人材を活かせるように連携や協働の促進に努めた。

①会員名簿の発行

発行部数 100 部

配 布 先 会員団体

(2)会員への情報提供と会員活動への広報協力

〔 内 容 〕 ①会員への情報提供

会員からの問い合わせについて、各種助成金情報や会員団体による主催事業情報、NPO支援に関する情報発信のホームページ上の準備を行いましたが、情報発信までには至っていません。

ワン・ワールド・フェスティバルの開催に伴い、会員団体の活動状況をイベント展示会場での紹介は大変好評だった。

②ホームページ・SNSによる情報発信

・実施方法 ホームページ掲示板からイベント、求人情報、助成金公募などの情報を掲載しました。

ホームページの内容を Facebook からシェアし発信をしました。



(3)会員と企業や団体の連携による事業

会員向け講演会の開催

〔 内 容 〕 大阪出入国在留管理局審査管理部門 統括審査官 山中秀樹氏に講演をいただきました。

〔 日 時 〕 2019 年 6 月 26 日(水) 講演会 16:00～17:00

〔 場 所 〕 難波市民学習センター 第 1 研修室(大阪市浪速区湊町 1-4-1 OCAT ビル 4 階)

〔 テ ー マ 〕 「外国人材の受け入れと共生のための取り組みについて」

〔 登 壇 者 〕 山中秀樹氏(大阪出入国在留管理局 審査管理部門 統括審査官)

〔 司 会 者 〕 新居 誠一郎氏((特活)関西国際交流団体協議会 事務局長)

〔 参加者数 〕 30 名



2.NGO／NPOと多分野の団体、他機関との連携促進事業

(1)第27 回ワン・ワールド・フェスティバル

このイベントは、当協議会が事務局機能を担い、「持続可能な開発目標(SDGs)の目標達成を目指して」をテーマに、17 項目の目標達成に向けて、企業・NPO・NGO の様々な活動を紹介するものです。SDGs の目標達成には、市民の積極的な参加が重要なファクターとなるため、企業及び NPO 等の活動状況及び内容を市民に向けて発信する事が重要となります。今回のイベントには約 26 千人の市民の方々にご来場いただき、SDGs に関する様々なプログラムを紹介することで、市民の方々との情報を共有できる「機会」と「場」を提供し、成功裏に閉幕を迎える事ができました。

新たな試みとして、カンテレなんでもアリーナで「シンポジウム」を開催しました。日本 WHO 協会の看護における通訳問題、女性が輝く NEO 大阪と題し女性躍進の紹介、SDGs の目標達成に向けた民間企業の活動状況の紹介等、話題性のあるテーマを取り上げたこともあり、大変好評でした。

また、イベントとの企画・運営を検討する実行委員会を毎月開催し、コアボランティアも会議に出席することで、開かれた実行委員会の運営に心掛け、直面している社会問題を互いに共有し、問題解決に向け継続した活動を行いました。今回のイベントには、2 日間で延べ 216 名のボランティアの方々にご参加をいただき、様々なイベントプログラムを支える大きな力として、活躍していただきました。

〔 日 時 〕 2020 年2月 1 日、2月2日

〔 会 場 〕 カンテレ扇町スクエア1F、北区民センター、扇町公園

〔 来場数 〕 約 26,000 名

〔 参加団体 〕 146 団体

〔 実施方法 〕 実行委員会形式

〔 協力団体 〕 関西テレビ放送(株)

〔 共催団体 〕 (一財)大阪市コミュニティ協会 北区支部協議会

〔 協賛団体 〕

(学)エール学園、(一社)大阪青年会議所、大阪府生活協同組合連合会、(一社)大阪労働者福祉協議会、岡安商事(株)、音羽電機工業(株)、金井重要工業(株)、カンサイ建装工業(株)、近畿労働金庫、(株)公文教育研究会、サラヤ(株)、(株)三和コンサルティング、島野珈琲(株)、(宗)真如苑、第一ゼミナール、ダイサン(株)、大日本除虫菊(株)、(株)てりとりー、中谷機工(株)、新居合同税理士事務所、(株)ニシハラ印刷、(一財)日本国際協力センター、日本労働組合総連合会大阪府連合会、(株)ネッツプランニング、(株)フレンドヒロ、(株)ベネシード、三木秀夫

法律事務所、(株)ムーラン、(株)リゾートライフ

〔 運営協力 〕

(公財)京都市国際交流協会、(株)インクリエイト、(株)ディーボックス、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、(株)大塚商会、関西ラグビーフットボール協会、(一社)日本結婚相談協会、グラン・アーモ TAMAHIME、東豊配送(株)、関西クリケット協会、関西学生クリケット連盟、(公財)ワールドマスタースゲームズ 2021 関西組織委員会、東大阪市スポーツのまちづくり戦略室、大阪府キンボールスポーツ連盟、泉南市教育部生涯学習課、コニカミノルタ労働組合大阪支部、積水ハウス(株)、(公社)大阪府看護協会

〔 後援団体 〕

外務省、総務省、文部科学省、経済産業省、環境省、大阪府、大阪市、堺市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、大阪府PTA協議会、大阪市PTA協議会、堺市PTA協議会、関西領事団、(公社)大阪府看護協会、大阪商工会議所、(公社)関西経済連合会、(一社)関西経済同友会、(公社)2025 年日本国際博覧会協会、(公財)ワールドマスタースゲームズ 2021 関西組織委員会、日本労働組合総連合会大阪府連合会、大阪弁護士会、(一財)自治体国際化協会、(公財)ユネスコ・アジア文化センター、(公財)関西・大阪 21 世紀協会、関西SDGsプラットフォーム、(公財)大学コンソーシアム京都、(特活)大学コンソーシアム大阪、(特活)南大阪地域大学コンソーシアム、(公社)日本ユネスコ協会連盟、(公財)大阪観光局、(公社)日本WHO協会、(一財)大阪教育文化振興財団 キッズプラザ大阪、北区商店会総連合会、天神橋筋商店会、天神橋三丁目商店街振興組合、ミナミまち育てネットワーク



〔 内 容 〕

① 実行委員会の結成(構成団体)

(公社)アジア協会アジア友の会、(公社)アムネスティ・インターナショナル日本・関西連絡会、(特活)AWPS学生スタッフチーム、(公財)オイスカ 関西支部、(一社)大阪青年会議所、(認活)大阪 NPO センター、(独)国際協力機構 関西センター、(独)国際交流基金関西国際センター、こどもの家プロジェクト、(特活)日本多文化交流協会、(一社)南太平洋協会、みんなで作る学校とれぶりんか、(特活)関西国際交流団体協議会 (全 13 団体)

② 実行委員会の開催

2019 年4月18日、5月15日、6月27日、7月18日、8月22日、9月11日、10月24日、11月12日、12月10日、2020 年1月23日(全 10 回)

③ ボランティアの参加

当日ボランティア募集…2019 年9月から募集しました。参加者216名(2日間延べ人数)

④ 出展団体募集 2019年9月から募集

- ⑤ 実行委員による企画と公募企画でプログラム立案、計56プログラム実施
- ⑥ NGO／NPO、ODA機関、国連機関、教育機関、公館、企業等91団体ブース出展
- ⑦ 外務省写真展
- ⑧ 国際交流・協力に関する各種シンポジウムやパネルディスカッション
- ⑨ 開発教育・国際理解教育促進のためのワークショップや実践事例紹介
- ⑩ 環境への取り組みや異文化理解のための体験プログラム
- ⑪ 音楽、舞踊、食を通した多様な文化の紹介と体験
- ⑫ 映像やパフォーマンス等を通した国際文化交流のプログラム
- ⑬ 扇町公園で「みんなのキッチン」、「みんなでスポーツ」、難民キャンプテント、ワールドマスタースゲームズ 2021PR ブース、キッズゲルニカワークショップを実施

(2) 関係諸機関とのネットワーク構築事業

門真市ボランティアポイント事業に対する支援事業

〔 内 容 〕 多分野のNGO／NPO、行政機関、企業、教育機関等とテーマを共有し、顔の見えるネットワークを構築して、連携事業に取り組みましたが、2020 年 3 月にて事業終了しました。

3.国際交流・国際協力・市民活動に関する情報収集と提供事業

(1)NGO／NPOに関する情報の収集・提供事業

〔 目 的 〕 国際交流・国際協力に関する多様な情報収集と提供を行う。

〔 内 容 〕 関係機関からの情報を整理し、ホームページ上での情報発信による提供を行うべく準備を進めましたが、実施に至っておりません。

(2)人材育成事業

・アジア留学生インターンシップ受け入れ事業

〔 目 的 〕

将来ますます多様化するグローバル社会の担い手に育成するため、SDGs をテーマに、当協議会の会員団体様の SDGs の取り組み及び運営資金の調達方法等の調査を行うことで、NPO・NGO が果たす社会的な役割等の課題に沿って 6 カ月間の研修を実施した。

〔 期 間 〕 2019 年9月～2020 年2月

〔 対 象 〕 中国留学生 1 名

〔 内 容 〕 文化の違いを理解している上で、ビジネスマナーに関する基本知識を身につけ、国際交流団体ネットワークにおける当協議会の役割を理解し、留学生としての目線を生かし、当協議会及び各会員団体の事業活動を調査研究を行う。ワン・ワールド・フェスティバルの企画運営及び実施を通して、国際交流のあり方、市民との交流について現場体験をしました。

(3)講師派遣事業

2019年5月6日、同志社大学ゼミにてワンフェスの現状と今後について、鷲田副実行委員長と新居事務局長が講演を行った。それを踏まえて、2ヶ月間学生がワンフェスの問題点と今後の解決策についてグループ毎に検討を行い、7月1日に発表を行った。

4.開発教育・市民意識啓発と活動への参加促進事業

計画時から実施予定の事業がなく、新たな事業を模索しましたが、実施に至っておりません。

5.NGO／NPOの基盤強化事業

(1)NGO等提案型プログラム業務事業

関西地方に所在する国際協力NGO等を対象として、中長期に亘り国際協力活動を企画運営できるように事業運営、組織運営の持続性向上を図る目的で、JICA関西へNGO等提案型プログラム企画申請を行ったが採用されなかった。

(2)多文化共生事業

①こどもプラザ

〔目的〕

外国にルーツを持つこどもたち、とくに Newcomer のこどもに対する日本語で学ぶ学習の支援と、地域コミュニティや学校に馴染めないこどもに対する居場所を確保する「こどもプラザ」の事業をスタートさせ、困難に直面しているこどもたちを支援する。この「こどもプラザ」は、大阪市内を中心に必要と思われる地域に拠点を立ち上げ順次拡大して行く予定です。目標は、日本に溶け込み、将来こどもたちが、多様化するグローバル社会の担い手に育成する事を目的とする。

〔期間〕 2019年11月開校、毎週水曜日17時～19時

〔対象〕 大阪市在住の外国から来日したこども、主に小学生が対象であるが、保護者(母親)からの要請にて母親教室も並行して実施

〔内容〕 こどもたちの学習支援と日本語習得の支援のネットワーク構築と、習慣・文化のふれあいを体験できる居場所づくりを行った。

2020年4月～2021年3月までに実施する大阪市の地域課題・社会課題の解決を目的とする公益的な事業として「こどもプラザ」が大阪市市民活動推進助成事業を獲得した。

②外国語による読み聞かせ会

2012年度から構築してきた市民団体、行政、総領事館、学校等との連携を活かして、在住外国人支援活動を実施する目的で、子どもゆめ基金へ助成申請を行ったが、採用されなかった。

6.調査研究・提言事業

審議会、委員会への参加

国際交流・協力の連合体／中間支援組織としての経験や情報、及びNPOセクターの視点を活かすと共に当該関係者の実状や声を施策に反映できるように努め、委員会等で得られた情報を事業に活用しました。

「外国人の住みやすい大阪」を考える関係機関等連絡会議(事務局＝大阪国際交流センター)において、外国人向けの相談会「1 日インフォメーションサービス」実施協力を行った。